



北海道議会議員

札幌市西区

和田 敬太

北海道に夢を。

ごあいさつ

地域の皆さまのご理解と後押しをいただき、『新しい北海道・札幌』の実現に向けて全力で取り組むうちに、はや任期4年間の折り返し点を過ぎました。

道議会では、議会運営委員会理事として道議会の円滑な運営に向けて汗を流すとともに、子ども政策調査特別委員として子どもたちが健やかに成長し、明るい未来に夢が描ける北海道をつくるための政策実現に全力を挙げています。

現在、わが西区ではヒグマの出没が相次ぎヒグマ警報が発令される深刻な事態となっています。道は「ヒグマ対策推進会議」を設置し、対策強化を進めていますが、一日も早く地域の安全が回復できるよう迅速かつ実効性ある対策を講じてまいります。

子どもからお年寄りまで誰もが安全・安心に暮らし、夢と希望が持てる札幌・北海道の実現に向けて引き続き全力を尽くします。地域の皆さまの一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

北海道議会議員

和田 敬太



「新生児マススクリーニング検査」が9月から無償化



先天性代謝異常などの疾病を調べる「新生児マススクリーニング検査」の検査対象が26の疾患から28に増え、9月から道内すべての地域で無料で受けられるようになりました。生まれてすぐの赤ちゃんからわずかな血液を採取し、生まれつきの病気を早期に発見し、治療に役立てるというもので、私が子ども政策調査特別委員会などで質問に取り上げ、対象疾患に追加するよう道に求めてきた活動が実を結びました。



若い力で地域を豊かに！ 道連青年局の幹事長に就任

今年4月に開かれた自民党道連青年局の定期総会において、幹事長を拝命いたしました。脈々と受け継がれてきた荒波に果敢に飛び込む精神で、全国の仲間と共に改革の先頭に立って活動してまいります。



左から和田勝也札幌市議会議員(手稲区)、中曽根康隆自民党青年局長(当時)

プロフィール

- 昭和58年7月25日、札幌市西区西野生まれ
- 西野桜幼稚園 卒園、手稲東小学校、手稲東中学校 卒業
- 立命館慶祥高校、立命館大学文学部 卒業
- ① 小学校ではじめて野球を大学まで継続する(高校では主将を経験)
- 平成18～29年 株式会社北洋銀行 勤務
- 平成29～令和5年 道議会議員和田敬太秘書
社会福祉法人愛敬園 理事(手稲東保育園、手稲曙保育園、北愛館)
- 令和5年～ 道議会議員初当選



三児のパパとして
子育て奮闘中!

【現在の役職】

- ・道議会議会運営委員会 理事
- ・同建設常任委員会 委員
- ・子ども政策調査特別委員会 委員
- ・自民党道連 副幹事長
- ・同道連青年局 幹事長
- ・札幌相撲連盟 会長
- ・札幌体探連盟 副会長
- ・西区少年野球連盟 顧問
- ・西区バドミントン協会 会長
- ・立命館慶祥高校同窓会 副会長
- ・手稲東小学校PTA 会長
- ・西区PTA連合会 副会長
- ・北海道全調理師 顧問
- ・リトルシニア中学硬式野球協会 顧問





誰もが安心して暮らせる北海道へスピーディーな対応を促す

令和7年はすでに第1回定例会と第3回定例会の2度、道議会本会議で一般質問に臨んだほか、所属する委員会でも活発な議論を展開し、医療や就労環境の整備、防災・減災、経済活性化に向けた観光振興など、山積する課題への対応強化を求めました。

令和7年第1回定例会(3月3日)

歯科保健対策について



和田 歯・口腔の健康維持は、質の高い生活を送るうえで重要。道は本定例会に「オーラルフレイル予防」や「口腔健康管理」などの文言を追加する「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」改正案を提案したが、その主旨や考え方、今後の取り組みについて伺う。

知事 平成21年策定の条例に基づき取り組みを進め改善が図られてきているが、一部の指標は全国比で低い水準であることなどを踏まえ提案した。来年度から新たに歯科健診の受診率向上に向けた取り組み事例集の市町村への配布や、オーラルフレイル予防の普及啓発、保健医療従事者への専門研修を開催する。

その他の質問項目

- 災害時のトイレ環境
- 魅せる沿道景観形成
- 国際人材の受け入れ環境整備
- Jリーグサッカーキャンプ
- 循環型社会形成
- ハンター育成
- 会計年度任用職員の処遇改善

第3回定例会の質問項目

- がん医療提供体制
- 特別支援学校の「就労のかたち」
- 高齢者の「就労のかたち」
- 防災・減災
- 台湾へのタンチョウ生息域外保全
- 相撲ツーリズム等を利用した観光振興
- 教職員の私用スマホ等の取扱い
- 電動キックボード

食ロスプロジェクトチームメンバーとして

都道府県初の「食品ロス削減推進条例」を制定



食べ物を大事にする心を通して、脱炭素や食料安全保障、北海道の魅力向上につなげるために条例案づくりに尽力しました。

——条例をつくる上で苦労した点は何ですか。

今回の条例は食料安全保障やエネルギーの無駄をなくすことも目的に含まれています。一般の方にとって食料安全保障という言葉はあまり馴染みがないかもしれないので、国が推進しているということを粘り強く訴え、ゼロカーボン推進計画にも「食品ロスの削減はエネルギーの削減にもつながる」という文言が盛り込まれていることを丁寧に説明して理解を求めました。

——条例によりどんなことが期待されるでしょうか。

北海道全調理師会の顧問も務めさせていただいていますが、生産者はもちろん、料理を提供する事業者の意見も広く取り入れながら条例を検討することが大切。私自身子育て世代の代表として、条例には経済的な理由で食事が十分とれない家庭への支援や災害時における余剰食材の活用も盛り込んでおり、フードバンクなどの市民団体との連携も進めていければいいと思います。



村山市議と発寒神社で御神輿を担ぐ



「豊かな海づくり大会」の放流事業



札幌の台所中央卸売市場



ヒグマ対策のための兵庫県立撃場視察



福井地区の夏祭りで焼き鳥担当



コンサタウンふれあい夏祭り



台湾の国慶節記念式典に出席



西区チャレンジカップ少年野球大会